令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【西原小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	中位層の学力を引き上げるためには、児童一人ひとりの多様なつまづきに応じて、各自の学びやすい環境を整えることが必要不可欠であるが、教師一人でそれぞれの学習スタイルに対応するのは無理がある。そこで、児童自身が「課題解決に向けた集中力」を高め、児童自身の手で「課題解決が捗る環境」を協働して整える授業をこれまで以上に推進する。加えて、基礎・基本の反復練習の仕方などの具体的な「学び方」が身に付く学習活動を充実させる。
思考・判断・表現	学習者が多様な考え方にふれながら試行錯誤する授業をより一層推進することで、失敗を気にせずに考えることの楽しさや、互いの考えを学び合うよさを体感できるようにする。学校全体で表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動をより充実することで、安心して自分の考えを表現できるようにする。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査における「平均正答数別人数割合の全国との差」が、上位層のピークと中位層のピークの差がある。 <p><指導上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者が「課題解決に向けた集中力」を高めることがなかなかできない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の反復練習の仕方や知識・技能を高めるための情報活用の仕方など「学び方」が身に付く学習活動を充実させる。【全国学力・学習状況調査の上位層と中位層のピークを4週以内にする】 ・漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【毎授業の実施】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の記述式問題について、無回答率が高い。 <p><指導上の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者が多様な考え方にふれながら試行錯誤する授業を一層推進しなくてはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を気にせずに考えることの楽しさや、互いの考えを学び合うよさを体感できるようにする。 ・表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動をより充実することで安心して自分の考え方を表現できるようにする。【全国学力・学習状況調査の記述式問題について、無回答の割合を平均3%にする】

<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	令和6年度さいたま市学習状況調査における「平均正答数別人数割合の市全体との差」について、上位層のピークと中位層のピークが4週以内だったのは、全12種目中、8種目にとどまったが、昨年よりも1種目増えた。どの学年も国語は比較的良好な結果だが、算数では学力差がみられる。
思考・判断・表現	B	令和6年度さいたま市学習状況調査の「思考力・判断力・表現力等」を問う問題において、無回答率の割合は、3年生が3.65% 4年生が1.25%、5年生が0.32% 6年生は、0.3%であった。5年生は昨年度は2%を上回っていたので、失敗を気にせずに考えることの楽しさや、互いの考えを学び合うよさを体感できるようになってきているのではないだろうか。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	「平均正答数別人数割合の全国との差」について、国語と算数ともに、上位層のピークと中位層のピークの差が6問(国語14問中：上位層のピーク13問、中位層のピーク8問。算数16問中：上位層のピーク16問、中位層のピーク9問)で、目標を達成することができなかった。より一層、中位層が上位層により近づきよう、課題解決のモチベーションが高まるような授業展開の工夫と、児童一人ひとりの学習スタイルに応じた「学び方」が身に付く学習活動を推進する。	
思考・判断・表現	記述式問題(国語2問、算数3問)における無回答率の割合は、国語平均13.2% 算数7.1%で、目標を達成できなかった。しかし、個別の状況を見ると、無回答率が5%を下回っているものが計2問(算数2問)あり、教科別平均では、国語7.5%、算数4.7%で、改善の余地がある。日々の授業において、まず考えを書き、それを改善・改良していくという、試行錯誤を前提とした学習をより一層推進する。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(担任・学年主任・実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・(3年生) 国語算数とも学校平均正答率が市を下回った。特に、国語の当該学年の前の学年別漢字記当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができない児童が多い。家庭学習も含めて漢字の反復練習が大切である。 ・(4年生) 国語算数とも学校平均正答率が市を下回った。・(5年生) 国算理社とも学校平均正答率が市を下回った。・(6年生) 国語算数理科社会ともに市を下回ったが、平均値よりも3ポイント未満だけ下回っていて、ほぼ平均値をとることができた。 	
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・(3年生) 国語算数とも学校平均正答率が市を下回った。特に、算数の四角形の定義を理解し選択することができない児童が多い。・(4年生) 国語算数とも学校平均正答率が市を下回った。特に、時刻の求め方や二次元表の見方を理解していない児童が多い。・(5年生) 国算理社とも学校平均正答率が市を下回った。しかし、国語や算数では無回答率は市を上回った。「問題を解こう。」としている意欲がみられる。・(6年生) 国語算数理科社会ともに市を下回ったが、平均値よりも3ポイント未満だけ下回っていて、ほぼ平均値をとることができた。特に理科では問題解決学習にのどった学習が身に付いており、市の平均を上回ることができた。 	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の反復練習の仕方や知識・技能を高めるための情報活用の仕方など「学び方」が身に付く学習活動を充実させている。 ・漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいるが、毎授業できなかった。 	家庭・地域と連携した学習習慣の定着に向けた取り組みをより実施する。【学校だより等で周知】
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を気にせずに考えることの楽しさや、互いの考えを学び合うよさを体感できるよう工夫をしている。 ・表現方法の工夫や効果的な情報活用などの「学び方」が身に付く学習活動をより充実することで安心して自分の考え方を表現できるようにしている。 	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)